

# 第1学年 算数科学習指導案

授業Ⅰ 児童 1年1組 男13名 女13名 計26名  
 授業者 畑中 弘子  
 支援員 松戸 淳子  
 授業Ⅱ 児童 1年2組 男13名 女11名 計24名  
 授業者 佐々木史代

## 1 単元名 たしざん

## 2 単元の目標

○1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を考え理解し、確実にできるようにするとともに、それを用いることができるようにする。

- ・既習の加減計算や数の構成を基に、1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を考えようとしている。【関心・意欲・態度】
- ・1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を考え、操作や言葉などを用いて表現したり工夫したりすることができる。【数学的な考え方】
- ・1位数どうしの繰り上がりのある加法計算が確実にできる。【技能】
- ・10のまとまりに着目することで、繰り上がりのある加法計算ができることを理解する。【知識・理解】

## 3 単元について

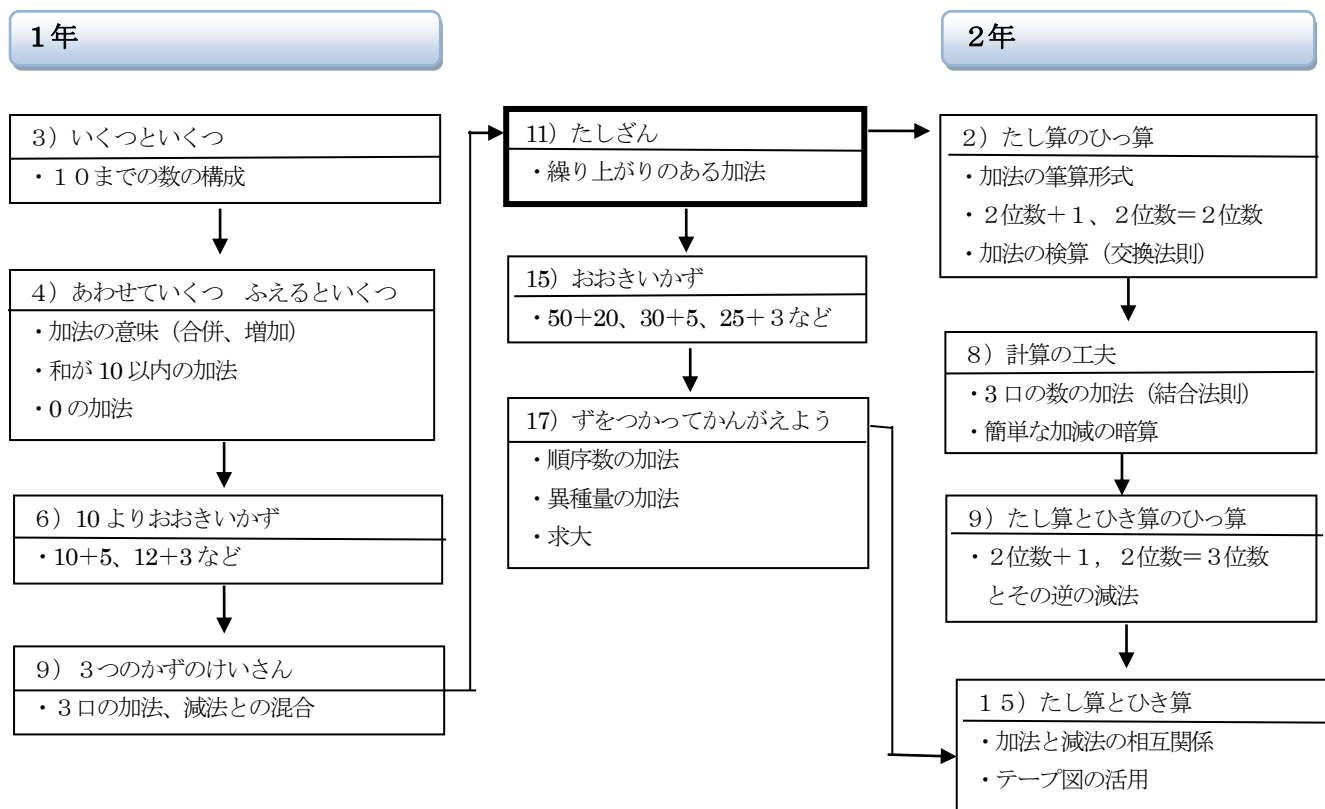
### (1) 児童について

省略

### (2) 教材について

省略

## 4 本単元の学習の関連と発展



5 単元構想 (全13時間)

小単元	時	目 標	評価の観点				教える場面	◎教えること ◎考えさせること
			関	考	技	知	考えさせる場面	
9 + 4 の け い さ ん	1	○1位数どうしの繰り上がりのある加法計算で、加数分解を理解する。	○					◎答えが 10 より大きい加法の計算の仕方
	2			○		○	チャレンジ	○9+4 の計算の仕方 ◎半具体物を使って計算の仕方を説明すること
	3	○前時までの学習をふまえ、1位数どうしの繰り上がりのある加法計算で、加数を分解して計算する方法の理解を確実にする。				○		○8+3 の計算の仕方 ◎加数分解の仕方に着目した間違い探し
	1組 本時						チャレンジ	
	4					○		チャレンジ
5				○	○		チャレンジ	○7+4 の計算の仕方 ◎被加数が7、6、5の計算の仕方
3 + 9 の け い さ ん	6	○1位数どうしの繰り上がりのある加法計算で、被加数分解があることを知り、計算の仕方についての理解を深める。		○				○3+9 の計算の仕方 ◎被加数分解で、加数が9と8の計算の仕方
	7				○		チャレンジ	◎被加数<加数の場合の計算の仕方
か あ ど れ ん し ゅう	8 ↘ 12	○加法の計算能力を伸ばす。		○	○		チャレンジ	◎適用問題を解くこと
ま と め	13	○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。				○		◎定着問題を解くこと

## 6 本時の指導【1組】

### (1) 目標

前時までの学習をふまえ、1位数どうしの繰り上がりのある加法計算で、加法を分解して計算する方法の理解を確実にする。


### (2) 評価規準

評価の観点	概ね満足できる	支援が必要な子への手立て
【知識・理解】	加数分解によって10のまとまりをつくり、計算の仕方を説明することができる。	・加数分解のブロック操作を想起させ、教師と一緒に操作したり、友だちが操作するのをまねて操作したりしながら、10のまとまりを作って答えを求めさせる。

### (3) 仮説について

#### ◇ 手立て1 基礎・基本の習得のための授業改善

##### ① 予習を生かした「つかむ段階」の授業構成

- ・◎が多いときは、本時の計算も、前時と同じように10のまとまりをつくればいいことを児童との対話から確認する。ブロック操作では、前時と同じ1だけを動かすことによって間違いに気付かせ、児童から被加数が8の場合の正しいやり方を引き出すようにする。
- ・○△が多いときは、被加数が9の場合は、1を足して10をつくったことを想起させ、8はあといくつで10になるかを確かめ、不足数を2と1に分ければいいことに気付かせる。
- ・既習の学習との違いが分かるように問題を提示し、解決への見通しがもてるようにする。

##### ② 対話を通した学習内容の習得

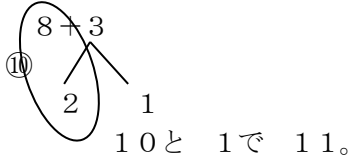
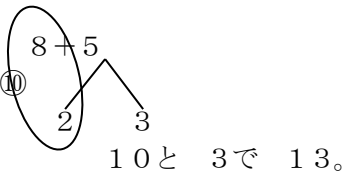
- ・10のまとまりをつくることを、ブロック操作と式を関連づけて考えさせるために、式で分けた部分はブロックでいうとどの部分なのか、なぜこのように分けるのかを児童に繰り返し問うようにして、計算の仕方をとらえさせる。

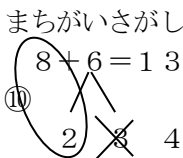
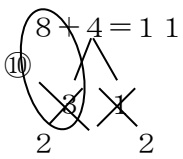
#### ◇ 手立て2 ペアやグループでの学び合いの充実

説明・評価、教え合いを取り入れた「たしかめる、ふかめる段階」のあり方

- ・ペアでさくらんぼ計算の仕方を説明し合ったり聞き合ったりすることで、加数分解の計算の仕方を確実にさせる。
- ・ペアで説明ができるように、「8はあと2で10。□を2と□に分ける。8に2を足して10。10と□で□。」というような計算の仕方カードを提示しておく。
- ・10のまとまりをつくることを常に意識できるように、表示する。
- ・全体で交流をする際は、ペアで役割分担をし、説明をする人の言葉に合わせて、式を指さすようにさせる。

(4) 展開 (3/13時)

段階	学習活動	指導上の留意点 (・) 教えること (○) 考えさせること (◎)	備考 (・) 評価 (◇)
<p>教える</p> <p>つかむ</p> <p>15分</p>	<p>1 問題を把握する。  <math>9+4</math>   <math>9+3</math>   <math>8+3</math></p> <p>2 予習の確認をする。</p> <p>3 学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <math>8+3</math>の けいさんの しかたを かながえよう。         </div> <p>4 計算の仕方をブロック操作で説明する。(加数分解)</p> <p>5 操作、言葉、式を関連づけながら、計算の仕方をまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>① 8は あと 2で 10。            ② 3を 2と 1に わける。            ③ 8に 2を たして 10。            ④ 10と 1で 11。</p>  </div>	<p>・前時の式と見比べて、どの部分が変化したか、はっきり分かるように提示する。</p> <p>・予習状況を把握する。</p> <p>・前時との共通点 (答えが10よりも大きくなること、加数が同じなこと) や相違点 (被加数が9から8になっていること) を確かめる。</p> <p>・一斉に課題を読んで確かめる。</p> <p>・ (◎が多いとき)        →教師が、前時の被加数が9の時と同じように、加数を1個だけ動かすことによつて、間違いに気付くようにさせ、児童から正しいやり方を引き出す。</p> <p>・ (○が多いとき)        →被加数が9の場合は、1を足して10をつくったことを想起させ、8の場合はあと2で10になることを確認してから、ブロック操作をする。</p> <p>○被加数が8の加数分解の仕方</p> <p>・教師のブロック操作に合わせて、計算の仕方を言うように指示する。</p> <p>・教師の説明に合わせて、ブロックを操作するように指示する。</p> <p>・自分で説明をしながら、ブロックを操作するように指示する。</p>	<p>・紙板書</p> <p>・紙板書</p> <p>・ブロック</p> <p>・計算の仕方カード</p>
<p>考えさせる</p> <p>15分</p>	<p>6 確認問題に取り組む。</p> <p>P. 5 △4</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>① 8は あと 2で 10。            ② 5を 2と 3に わける。            ② 8に 2を たして 10。            ③ 10と 3で 13。</p>  </div>	<p>・8+3との違いに着目させるようにする。</p> <p>・ブロック操作をしながら、説明をするように指示する。</p> <p>・説明ができれば、計算の仕方をノートに書く。(さくらんぼ計算)</p> <p>・ペアで計算の仕方を説明し合う。</p> <p>・丸付けをしながら、10のまとまりを意識できているか確認する。</p>	<p>◇【知・理】 (観察・ノート)</p> <p>・計算の仕方カード</p>

ふかめる 10分	<p>7 チャレンジ問題に取り組む。</p> <p>まちがいさがし</p> <p>⑩ <math>8 + 6 = 13</math>    10と4で14。</p> <p>&lt;解答例&gt;          6を2と3にわけたところがちがう。6は2と4。          10と4で14となる。</p> <hr/> <p>⑩ <math>8 + 4 = 11</math>    10と2で12。</p> <p>&lt;解答例&gt;          4を3と1にわけたところがちがう。8はあと2で10だから2と2にわける。          10と2で12になる。</p>	<p>◎加数分解の仕方に着目して、間違いを見つけること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・違うところに×をつけて、正しい答えを書くように指示する。1問目は、一斉にやって確かめる。</li> <li>・なぜ違うのかも説明できるようにすることを確かめる。</li> <li>・被加数が、8の場合は、あといくつで10になるかを考えて、加数を分けることを確認する。</li> <li>・取り組めないでいる児童には、加数を正しく分けているかに着目させたり、ブロックを使って10のまとまりを作らせたりして、正しい答えを求めさせるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙板書</li> </ul> <p>◇【知・理】          (観察・ノート)</p>
ふりかえる 5分	<p>8 本時を振り返る。</p> <p>9 次時の確認をする</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・算数カードに学習の理解度について印をつけるよう指示する。</li> <li>・振り返りの観点を与える。</li> <li>・次時は、被加数が9、8の場合の計算練習に取り組むことを伝える。</li> </ul>	

## 6 本時の指導【2組】

### (1) 目標

被加数分解の計算の仕方を知り、計算の仕方についての理解を深める。


### (2) 評価規準

評価の観点	概ね満足できる	支援が必要な子への手立て
【数学的な考え方】	半具体物を使って10のまとまりをつくり、計算の仕方を説明することができる。	・あといくつで10になるのか支援しながら、被加数と加数のどちらを分解する方が簡単か考えさせ、計算の仕方に気付かせる。

### (3) 仮説について

#### ◇ 手立て1 基礎・基本の習得のための授業改善

##### ① 予習を生かした「つかむ段階」の授業構成

- ・具体物で被加数と加数のどちらを動かすと簡単か、視覚化する。
- ・◎が多いときは、ブロックで被加数分解のほうを動かしやすいことを確認し、児童と対話をしながら言葉と式の説明を一緒に考える。
- ・○△が多いときは、前時までに学習した「10のまとまり」を意識させてからブロックを操作して、被加数分解へとつなげていく。
- ・加数分解も一緒にブロック操作で行い、被加数と加数のどちらが10にしやすいか考えさせる。

##### ② 対話を通した学習内容の習得

- ・前時までに学習した「10のまとまり」をつくり、「10といくつ」と考えることを、全員で対話しながら確認する。
- ・ブロック操作や、ノートに書いた式や図を指さしながらペアで説明し合う。

#### ◇ 手立て2 ペアやグループでの学び合いの充実

説明・評価、教え合いを取り入れた「たしかめる、ふかめる段階」のあり方

- ・ペアでブロックを操作しながら、説明し合ったり聞き合ったりすることで、被加数分解の計算の仕方をより一層確実にさせる。
- ・ノートに書いた式や図を指さしながら計算方法を説明し、お互いに大切な言葉や数字などが合っているかどうか評価しあう。
- ・発表練習のときは役割を分担することで、説明と指さしがお互いに合っているかどうか確かめ合う。
- ・ブロックを操作しながら説明ができるように、計算の手順を提示しておく。

(4) 展開 (6 / 13時)

段階	学習活動	指導上の留意点 (・) 教えること (○) 考えさせること (◎)	備考 (・) 評価 (◇)
<p>教える</p> <p>つかむ</p> <p>20分</p>	<p>1 問題を把握する。</p> <p>2 予習の確認をする。</p> <p>3 学習課題を確認する。</p> <div data-bbox="279 470 790 582" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>3+9の けいさんの しかたをかながえよう。</p> </div> <p>4 計算の仕方をブロックで説明する。(被加数分解)</p> <div data-bbox="279 694 790 929" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>3+9 のけいさんの しかた</p> <p>9はあと1で10。 3を1と2にわける。</p> <div data-bbox="574 772 774 907" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> </div> <p>9に1をたして10。 10と2で12。</p> </div> <p>5 まとめる。</p> <div data-bbox="279 1131 790 1265" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>おおきいほうで 10の まとまりをつくると かんたんに けいさんできる。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図を見て立式し、前時までと何がちがうか確認する。</li> <li>・ 予習状況を把握する。</li> <li>・ 一斉に課題を読む。</li> <li>・ (◎が多いとき) →具体物でどちらを動かすと簡単か視覚に訴えてから、ブロックで被加数分解を演示する。</li> <li>・ (○△が多いとき) →具体物でどちらを動かすと簡単か視覚に訴えてから、「10のまとまり」をつくりやすいのはどちらかブロック操作をしながら考える。</li> <li>○被加数分解の仕方             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 加数分解もブロックで演示し、どちらが10にしやすいか確認する。</li> <li>・ 一斉読みをして確認する。</li> <li>・ ノートの書き方を確認する。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 拡大図</li> <li>・ たまごブロック</li> <li>・ ブロック</li> </ul>
<p>考えさせる</p> <p>7分</p>	<p>6 確認問題に取り組む。</p> <p>P7 △9</p> <p>① 2+9</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ブロック操作をしながら説明をし、ペアで聞き合う。</li> <li>・ 説明ができれば、ノートに書く。</li> <li>・ ノートを見せながら説明し合う。</li> <li>・ 丸付けをしながら児童の理解を確認する。</li> </ul>	<p>◇【考】 (観察・ノート)</p>
<p>ふかめる</p> <p>13分</p>	<p>7 習熟問題に取り組む。</p> <p>P7 △9</p> <p>③ 3+8</p> <p>⑤ 5+9</p> <p>⑦ 6+8</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎被加数分解で、加数が9と8の計算の仕方</li> <li>・ ブロック操作をしたらノートに書く。</li> <li>・ ノートを見せ合いながらペアで説明し合う。</li> <li>・ 代表のペアが黒板の前に出て、解き方の発表をし、答え合わせをする。</li> </ul>	<p>◇【考】 (観察・ノート)</p>
<p>ふりかえる</p> <p>5分</p>	<p>8 本時を振り返る。</p> <p>9 次時の確認をする</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 算数カードに学習の理解度について印をつけるよう指示する。</li> <li>・ 振り返りの観点を与える。</li> <li>・ 次時は、文章題や加数と被加数のどちらを分解するか考える問題などを学習することを伝える。</li> </ul>	